

歴史ある津屋崎千軒地区

津屋崎千軒は福津の歴史ある地区であり、保存状態の良い明治時代（1868～1912 年）の商家が並んでいます。この地区の名前は、かつては狭い通りに多くの家が立ち並んでいたことに由来します（「千軒」とは、千軒の家という意味）。いくつかの歴史的建造物は公開されています。津屋崎千軒は、1905 年に製塩業が政府の管理下に入るまで、この地域の製塩業の中心として栄えました。津屋崎の塩田は 1911 年に閉鎖されました。

伝統産業

「藍の家」は、藍染物の工房だった建物です（1901 年築）。現在は民俗博物館として公開されています。「藍の家」の隣には、1874 年に創業し家族で経営している「豊村酒造」があります。豊村酒造では、明治時代の店頭を訪れることができます。敷地の奥にある酒造所は、催事やお祭りの際に公開されます。家族経営の「筑前津屋崎人形巧房」は、津屋崎人形を 240 年以上にわたって作り続けてきました。津屋崎人形とは、焼き物に手作業で彩色した人形です。「筑前津屋崎人形巧房」は、年 1 回行われる津屋崎祇園山笠祭りの山車のために人形を製作しています。

観光案内所「津屋崎千軒なごみ」は、伝統的な商家を模して設計されています。「津屋崎千軒なごみ」には、パンフレットや地図とともに、この地域の歴史に関する展示があります。

伝説を持つ神社

波折神社は津屋崎千軒地区の中心にあり、漁師の守り神だと信じられている三体の神を祀っています。この地域の伝説によると、かつて、津屋崎の漁師 3 人が、ひどい嵐につかまってしまったことがあります。漁師たちが身の安全を祈ると、三体の神が現れ、漁師たちを海岸からすぐの島へと無事に導いてくれました。数日後、嵐が収まると、漁師たちは安全に港へ戻りました。漁師たちは、自分たちの船で 3 つの石を見つけ、

これらの石は三体の神を表していると信じました。漁師たちは、3つの石を津屋崎に持ち帰りました。そして、これらの石を祀り、自分たちを救ってくれた神々を崇めるために、波折神社を建立しました。

波折神社の境内には、波頭に立つ「波乗りうさぎ」を描いた石像があります。この像は干支の卯年である1927年に地元の人々が神社に寄進したものです。

毎年7月、波折神社は津屋崎祇園山笠祭りの出発地点になります。このお祭りの起源は、300年以上前にさかのぼります。このお祭りでは、色鮮やかに飾りつけた木製の山車を担いだ各組が狭い通りを走って競争します。